

# 令和7年度全国学力・学習状況調査の結果について

## 令和7年10月6日

### 枚方市立招提中学校

文部科学省が今年4月に実施した、令和7年度全国学力・学習状況調査の結果について、本校の学力や学習の状況を保護者の皆様にお知らせします。結果によると、生徒の生活習慣と学力には相関関係があることから、引き続き、保護者の皆様にもご協力をお願いいたします。

#### ※調査結果について

教科や出題範囲が限られていることから、全国学力・学習状況調査により測定できるのは、学力の特定の一部分です。

### 学力調査の結果

学力調査結果の中から、本校と全国の平均正答率(対全国比)をお知らせします。

令和7年度 平均正答率 対全国比		国語	数学
招 提	中学校	非公表	非公表

### <学力調査結果の概要>

#### ○国語について

学習指導要領の内容において、知識及び技能では、「言葉の特徴や使い方に関する事項」に課題が見られました。また、思考力、判断力、表現力等では、「話すこと・聞くこと」及び、「書くこと」について成果が見られる一方、「読むこと」について課題が見られました。

また、問題の概要別では、「ちらしの読み手に向けて、今年の美術展の工夫について伝える文章を書く」に成果が見られる一方、「一 榎木の実」に書かれている場面が、「二 釣の話」には書かれていないことによる効果について、自分の考えとそのように考えた理由を書く」について課題が見られました。

#### ○数学について

学習指導要領の領域において、「データの活用」について成果が見られる一方、「関数」について課題が見られました。

また、問題の概要別では「Aの手元のカードが「グー」、「チョキ」、「パー」、「パー」の4枚、Bの手元のカードが「グー」、「チョキ」の2枚のとき、AとBの勝ちやすさについての正しい記述を選び、その理由を確率を用いて説明する」について成果が見られる一方、「連続する三つの3の倍数の和が、9の倍数になることの説明を完成する」について課題が見られました。

# 令和7年度 全国学力・学習状況調査中学校〈理科〉について

中学校(理科)はCBTによる調査を実施。IRTスコアをベースに結果を示しております。

## IRTとは

児童生徒の正答・誤答が、問題の特性（難易度、測定精度）によるのか、児童生徒の学力によるのかを区別して分析し、児童生徒の学力スコアを推定する統計理論。  
項目反応理論(Item Response Theory)。  
異なる問題からなるテストの結果や、異なる集団で得られたテストの結果を互いに比較することができる。  
※PISA、TOEIC・TOEFL等の英語資格・検定試験、医療系大学間共用試験等で採用されている。



### <参考> 素点方式（正答数・正答率）、IRT方式の比較

※視力検査を例としたイメージ

本資料はイメージを表すことを目的として作成したため、示された7つのランドルト環の大きさ（難しさ）がAさんとBさんと異なっている。

	素点方式	IRT方式																																		
得点(スコア)の表現方法	何個のランドルト環 (C) を見ることができたか	どの大きさのランドルト環 (C) を安定的に見ることができたか																																		
得点(スコア)の例	<table border="1"> <tr><td>0.1</td><td>○○</td></tr> <tr><td>0.2</td><td>○○○</td></tr> <tr><td>0.3</td><td>○</td></tr> <tr><td>0.4</td><td>○</td></tr> </table> <p>5問/7問 (正答率71%) Aさん</p>	0.1	○○	0.2	○○○	0.3	○	0.4	○	<table border="1"> <tr><td>0.1</td><td>○</td></tr> <tr><td>0.2</td><td>○</td></tr> <tr><td>0.3</td><td>○○</td></tr> <tr><td>0.4</td><td>○○○</td></tr> </table> <p>4問/7問 (正答率57%) Bさん</p>	0.1	○	0.2	○	0.3	○○	0.4	○○○	<table border="1"> <tr><td>0.1</td><td>○○</td></tr> <tr><td>0.2</td><td>○○○</td></tr> <tr><td>0.3</td><td>○</td></tr> <tr><td>0.4</td><td>○</td></tr> </table> <p>0.2 Aさん</p>	0.1	○○	0.2	○○○	0.3	○	0.4	○	<table border="1"> <tr><td>0.1</td><td>○</td></tr> <tr><td>0.2</td><td>○</td></tr> <tr><td>0.3</td><td>○○</td></tr> <tr><td>0.4</td><td>○○○</td></tr> </table> <p>0.3 Bさん</p>	0.1	○	0.2	○	0.3	○○	0.4	○○○
0.1	○○																																			
0.2	○○○																																			
0.3	○																																			
0.4	○																																			
0.1	○																																			
0.2	○																																			
0.3	○○																																			
0.4	○○○																																			
0.1	○○																																			
0.2	○○○																																			
0.3	○																																			
0.4	○																																			
0.1	○																																			
0.2	○																																			
0.3	○○																																			
0.4	○○○																																			

※素点方式の場合は、Aさんの方が正答数（見ることができたランドルト環の数）・正答率が高くなる。IRT方式の場合は、Bさんの方がスコア（視力）が高くなる。

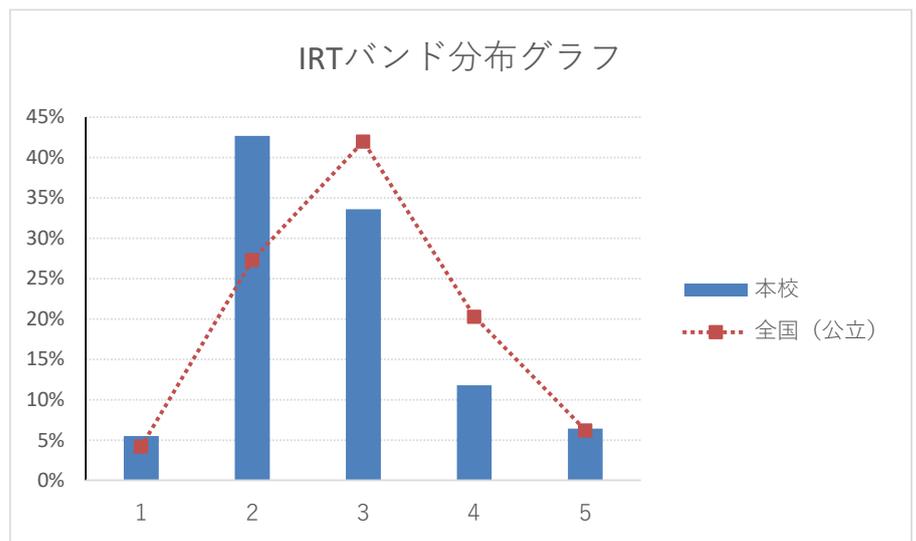
### 悉皆調査でIRTを導入するメリット



- ① 調査日の複数設定が可能になる。各児童生徒が異なる問題を解く設計にできる。
- ② 今まで以上に多くの問題を使用し、幅広い領域・内容等での調査が可能になる。
- ③ 学力の経年変化を各教育委員会・学校でも把握できる。

## 学力調査の結果

	平均IRTスコア
本校	467
全国(公立)	503



## <学力調査結果の概要>

### ○理科について

学習指導要領の領域において、「粒子」を柱とする領域について成果が見られる一方、「エネルギー」を柱とする領域について課題が見られました。

また、問題の概要別では「一酸化炭素は空気より軽い」という性質を基に、適切な避難行動を選択する」について成果が見られる一方、「【考察】をより確かなものにするために必要な実験を選択し、予想される実験の結果を記述する」について課題が見られました。

# 国語科において成果があった設問

## 【成果が見られた設問】

### 問題の概要（見出し）

スライドを使ってどのように話しているのかを説明したのものとして適切なものを選択する。

－ 村田さんは、【村田さんのスピーチ】の—線部②「スライドに示したように、次の年、また次の年へとつながる、持続的な活動であることが、この活動の大きな特徴です。」のように、スライドを使って話しています。このときの村田さんの話し方を説明したものとして最も適切なものを、次の1から4までの中から1つ選びなさい。

- 1 聞き手の印象に残るように、スライドで意見だけを要約して示しながら、意見とそれを支える根拠を話している。
- 2 聞き手によって経験が違うことを考慮して、スライドで補足の情報を示しながら、話の要点を絞って話している。
- 3 聞き手が興味をもつように、スライドで異なる視点からの情報を示しながら、自分の主張を繰り返し話している。
- 4 聞き手からの質問を想定して、スライドで質問に対する回答を示しながら、自分の立場と考えを話している。

### 考察

この問題は、全国の平均に対しても大阪府の平均に対しても上回る結果であった。日常の授業からスライドを作成する授業やスライドを使っでの発表などに取り組んでいるため、スライドの適切な使い方ということが理解できている生徒が多かったことがこの結果に繋がっていると考えられる。これからもこのような能力は必要とされるので、授業の中で取り組んでいきたいと思う。

### 問題の概要（見出し）

手紙の下書きを見直し、誤って書かれている漢字を見付けて修正する。

— 三上さんは、「手紙の下書きの一部に、一箇所、漢字の誤りがある」とに気付きました。三上さんの修正の仕方を参考にして、誤って書かれている漢字を線で消し、消した漢字の右横に、正しい漢字を書きなさい。

### 考察

この問題も上記の問題と同様に大阪府と全国の平均正答率を上回る結果であった。3年間を通して漢字の学習には力を入れてきた。定期テストなどの様子を見ていると、生徒たちの意識も学年が上がるにつれて高まってきているように感じる。漢字は、どの教科を学ぶ上でも基本の知識であるため今後も全学年を通して漢字の指導には力を注いでいきたい。



## 理科において成果があった設問

### 【成果が見られた設問】

#### 問題の概要（見出し）

気体の密度の大小を判断し、並べる。  
一酸化炭素は空気より軽いという性質を基に適切な避難行動を選択する。

#### （実際の問題を添付）

(1) 動画1, 2を見て、プロパンガス、都市ガス、空気を密度の小さい順に左から並べなさい。

(2) ( )にあてはまる最も適切な図を1つ選びなさい。

- 低い姿勢で避難する
- 走って避難する
- 机の下に隠れ、そのまま座っている
- 窓を開ける

#### 考察

(1)は全体の正答率が高い生徒ほど正解で、IRT1の生徒は全員不正解、5の生徒は全員正解。(2)はIRT1以外の生徒はほぼ正解でIRT4, 5の生徒は全員正解だった。

このことから、学力と理解力は比例している。また、授業で生活や社会の関連事項を話題や問題にすることにより、自分事として定着したと考えられる。また、わかりやすい映像や図などの資料は理解に役立っていると考えられる。

#### 問題の概要（見出し）

各器官に共通する構造と同じ構造をもつものとして適切な事象を判断し、選択する。

#### （実際の問題を添付）

物質を体内に取り入れるための体の構造について探求しています。

次の①から③には、物質を体内に取り入れるための体の共通点があります。

①小腸の柔毛 ②肺の肺胞 ③根毛

(1) 上の①から③の共通点と同じ内容を含むものとして、最も適切なものを1つ選びなさい。

- スチールウールをほぐして火をつける
  - 水を使って小さな石などの汚れをとる
  - カバーガラスを軽く押してから観察する
  - ビニール袋に手を入れ、水の中に手を入れる
- (2) 図のように消化によってデンプンがブドウ糖に分解されることで、体内に取り入れやすくなります。

加熱することで分解が起きるものを1つ選びなさい。

- 電熱線に電流を流して水を加熱する
- ガスバーナーで炭酸水素ナトリウムを加熱する
- ブドウ糖を含む溶液にベネジクト液を加えて加熱する
- マグマが地下水を加熱する

#### 考察

全体の正答率が高い生徒ほど正解している。IRT5の生徒でも不正解者がいる。IRT1の生徒でも正解者がいる。無回答者はいない。

それぞれが単元を超えた既習内容で、全て理解していないと正解できないことから学習内容の理解に比例していて、個別理解のつながりも比例していると考えられる。図があってもIRTが低いほど誤答者がいることから、選択問題でなければ更に低い正答数と推定され、読解力や表現力も必要で、意図的に会話文や文章題、関連する既習内容を取り入れた学習が必要だと考えられる。これらのことから、引き続き協働学習を軸として、それぞれの課題に応じた指導を行い、全体の理解力を高めていく取り組みをしていく。

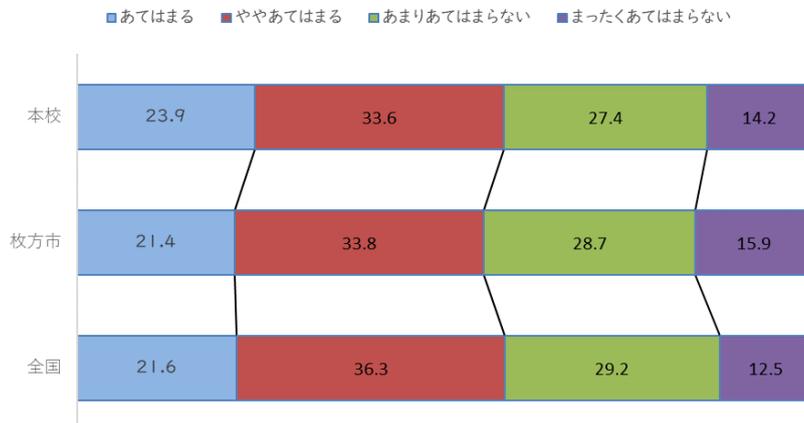
## 質問紙調査の結果

※帯グラフは、左から「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」「あまりあてはまらない」「まったくあてはまらない」を示しています。

※無回答があるため、帯グラフの合計数値は100にならない場合もあります。

### 【実施教科におけるアンケート結果】

国語の勉強は好きですか

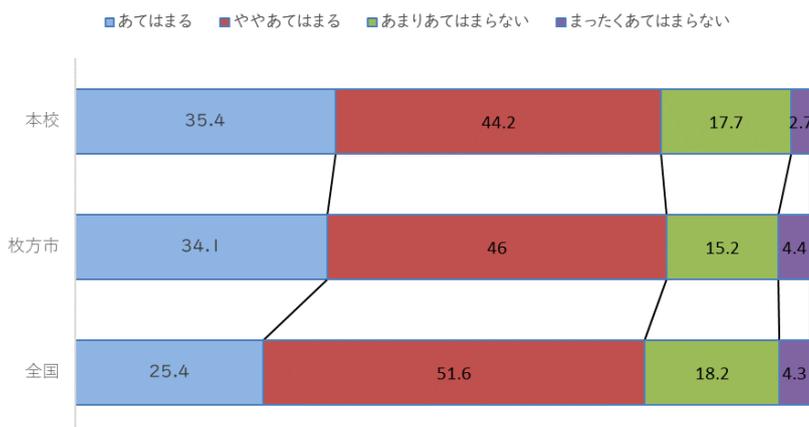


○考察

“あてはまる” “ややあてはまる”と肯定的な回答をした子どもの割合は57.5%で、対全国比で-0.4ポイント、対枚方市比で+2.3ポイントでした。

また、令和3年度から令和7年度における国語の正答率の対全国比は、令和5年度が最も高く、令和7年度は、令和5年度よりも-0.07ポイントとなっています。引き続き、子どもの興味・関心を引き出す授業改善の取組が必要と考えます。

国語の授業の内容はよくわかりますか



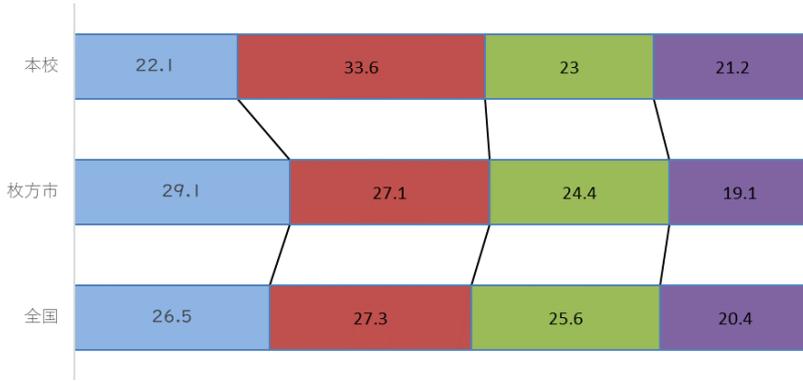
○考察

“あてはまる” “ややあてはまる”と肯定的な回答をした子どもの割合は79.6%で、対全国比で+2.6ポイント、対枚方市比で-0.5ポイントでした。

また、“あてはまる”と回答した子どもの割合は35.4%で、対全国比で+10ポイント、対枚方市比で+1.3ポイントでした。引き続き、子どもたちが、「わかった、できた。」と実感できる授業の実践と子どもたちの実態に応じた授業改善の継続した取組が必要と考えます。

数学の勉強は好きですか

■あてはまる ■ややあてはまる ■あまりあてはまらない ■まったくあてはまらない

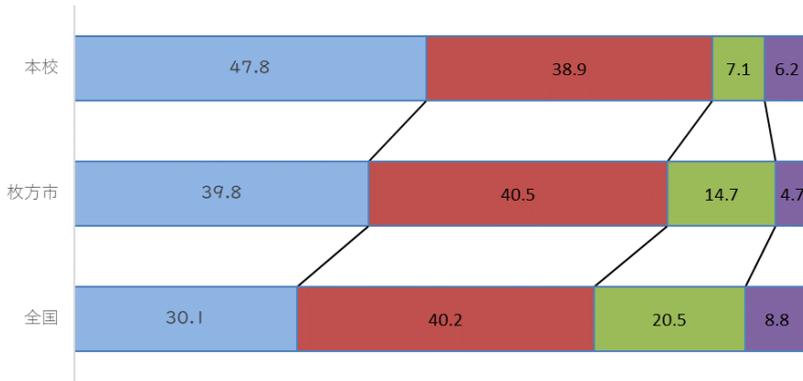


○考察

“あてはまる” “ややあてはまる”と肯定的な回答をした子どもの割合は55.7%で、対全国比で+1.9ポイント、対枚方市比で-0.5ポイントでした。また、令和3年度から令和7年度における数学の正答率の対全国比は、令和6年度が最も高く、令和7年度は令和6年度よりも-9.0ポイントとなっています。引き続き、子どもの興味・関心を引き出す授業改善の取組が必要と考えます。

数学の授業の内容はよくわかりますか

■あてはまる ■ややあてはまる ■あまりあてはまらない ■まったくあてはまらない

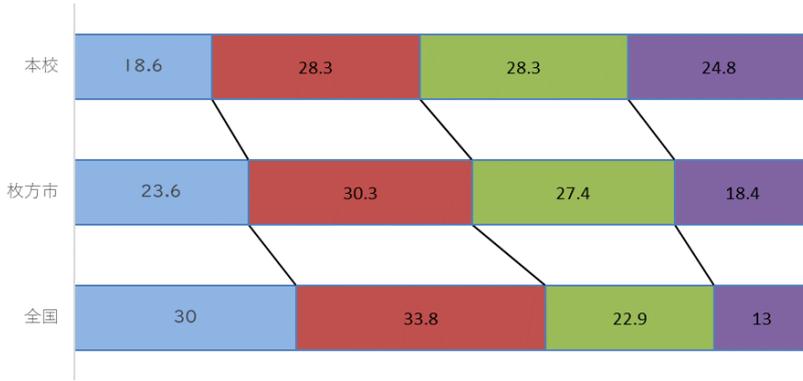


○考察

“あてはまる” “ややあてはまる”と肯定的な回答をした子どもの割合は86.7%で、対全国比で+16.4ポイント、対枚方市比で+6.4ポイントでした。また、“あてはまる”と回答した子どもの割合は47.8%で、対全国比で+17.7ポイント、対枚方市比で+8.0ポイントでした。子どもたちが、「わかった、できた。」と実感できる授業の実践とともに、努力が結果に結びつくための授業改善の取組が必要と考えます。

理科の勉強は好きですか

■あてはまる ■ややあてはまる ■あまりあてはまらない ■まったくあてはまらない

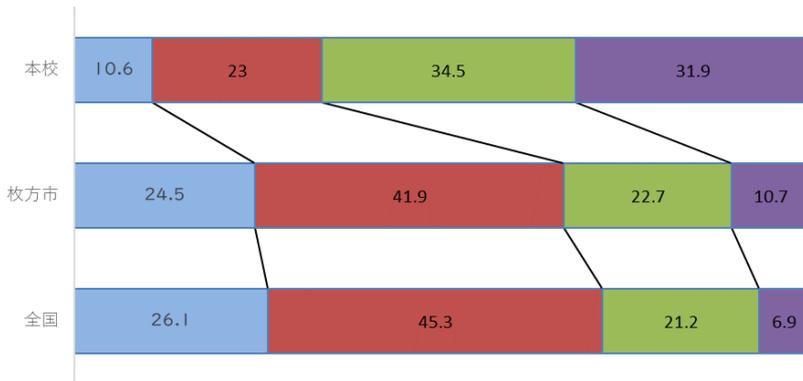


○考察

“あてはまる” “ややあてはまる”と肯定的な回答をした子どもの割合は46.9%で、対全国比で-16.9ポイント、対枚方市比で-7ポイントでした。また、IRTスコア集計値において、本校は、467ポイントで、対全国比で-36ポイントとなっています。なお、令和4年度の平均正答率における全国比は-8.3ポイントとなっています。引き続き、子どもの興味・関心を引き出す授業改善の取組が必要と考えます。

理科の授業の内容はよくわかりますか

■あてはまる ■ややあてはまる ■あまりあてはまらない ■まったくあてはまらない



○考察

“あてはまる” “ややあてはまる”と肯定的な回答をした子どもの割合は33.6%で、対全国比で-37.8ポイント、対枚方市比で-32.8ポイントでした。また、“まったくあてはまらない”と回答した子どもの割合は31.9%で、対全国比で+25.0ポイント、対枚方市比で+21.2ポイントでした。子どもたちが、「わかった、できた。」と実感できる授業改善の取組が必要と考えます。

## 分析結果を踏まえて取り組んでいくこと

### (1)授業改善について

- ・学力向上担当者を要として、日々の授業観察、教科部会、校外研修、校内研究授業などを通じて、授業改善の取り組みをさらに推進していきます。
- ・招提中校区(招提小・平野小)として、今年度は、「みんなで学ぼうぜっ！～学び続ける子どもの育成～」をテーマに、武庫川女子大学 教授 藤本 勇二 先生をお招きし、授業改善に取り組みます。
- ・すべての教科において、「すべての生徒が学べる環境づくりを意識した授業の研究」をテーマに、協働学習に加え、個別最適な学びの視点を取り入れた授業を実践し、子どもたちが多様な学習形態で自分のペースや学習進度、学習到達度に応じて、一人で学んだり、他者と協働して学んだり、授業教科書や本、インターネットの活用など、学習内容や学習方法を、自己調整・自己決定して、学習課題に取り組み、学びを深めることができる授業の実践に取り組みます。
- ・生徒の自己肯定感を高めるため、授業時の小さな成功を積み重ねていくような授業を行っていきます。
- ・放課後自習教室等を活用し、個別指導の充実を図り、全体的な学力の底上げを行っていきます。
- ・生徒の学習への興味・関心・意欲を深めるため、更なるICT活用を図り授業の中に取り入れます。
- ・朝読書を行うことにより、たくさんの文章や言葉に触れ、学習の基礎となる「読む力」や「書く力」の育成を目標としています。また、学校図書館等を活用した読書活動の取り組みを推進します。

### (2)家庭学習について

- ・家庭学習に対する意欲を高めることの一貫として、自主学習ノートの取組を推進します。校区小学校(招提小・平野小)とも連携を図り、小中学校9年間を通しての定着をめざします。
- ・教員の自己研鑽、他校との交流、研修等を通じて、生徒が興味を持って予習、復習等に取り組むための教材の研究を行います。
- ・放課後自習教室を活用し、生徒の自主的な活動を促すとともに、教員による丁寧な個別指導を行います。